

昭和28年度

事業報告書

志摩川

鹿児島県北薩水産指導所

目次

漁撈部	色紙
瀬魚釣漁業試験	1
鯖釣漁業試験及び漁況調査	21
鱸刺網漁業試験	45
月日介分布及び生態調査	52
定置漁場海底調査	66
遠洋漁業調査	73
増殖部	色紙
ツノリ増殖効果判定試験	145
米之津地先の海苔種子場調査	155
川内川調査	170
海洋調査	187
鱸資源委託調査	281
沿岸定置観測	287

漁 撈 部

瀬魚釣漁業試験

山下和昭、岩倉 栄

(一) 趣 旨

中型漁船による操業行詰り打開策として昨年秋当所管内では未経験であつた新業を取り上げ地元船数隻と共に近海未開拓漁場へ出漁し一応瀬魚釣の概念と操業方法を把握したので本年は瀬魚釣操業の春は南・秋は北と云ふ概念と別に春期は天候不穏であつた処から鰯釣を兼ね近海場の調査を三航海実施し、秋期は近海不漁のたの沖合進出を試みたが天候等に因り充分なる操業は出来なかつた。

更に鰯刺網漁業不漁により29年3月に近海漁場を操業し可成りの成果を収め春期に於ける漁場を把握し得た。

(二) 操 業 期 間

ア 1 次	昭和28年 4月 13日 ~ 15日
ア 2 次	4月 17日 ~ 23日
ア 3 次	4月 25日 ~ 5月 3日
ア 4 次	9月 17日 ~ 10月 6日
ア 5 次	10月 14日 ~ 10月 28日
ア 6 次	11月 10日 ~ 11月 20日
ア 7 次	11月 28日 ~ 12月 11日
ア 8 次	3月 9日 ~ 3月 21日

(三) 調 査 船

ちどり丸 / 9.57吨, 50HP NEC103型魚群探知機 : 25W無線電信機

(四) 調 査 員 及 船 員

ア 1, 2, 3, 4, 5, 8 次 山下和昭 船員 9 ~ 11 名
 ア 6, 7 次 岩倉 栄

(五) 積 込

碎 氷 ア 1 次 2 次, 3 次 : 計 10 屯 ア 4 次 : 8 屯 ア 5 次 : 6 屯 ア 6 次 : 5 次
 ア 7 次 : 6 屯 ア 8 次 : 5 屯

餌料

ア 1, 2, 3 次	160 X	冷凍いわし さんま
ア 4 次	40 X	冷凍するめいか
ア 5 次	62 X	冷凍するめいか 25 X まるそうだ 9 X
		さば 28 X
ア 6 次	57.5 X	まるそうだ 9.5 X 冷凍いか 4 X サバ 24 X ムロアチ 20 X
ア 7 次	56 X	まるそうだ 20 X 冷凍いか 20 X サバ 16 X
ア 8 次	62 X	さば 48 X 冷凍いか 12 X

(六) 漁獲高

航路	漁獲 X 数	魚種
1	258 X 65	さば 126 X 55 瀬魚 (トビき, たるめ, ちびき, ぶつ, くろ)
2		
3		
4	104 X 00	ちびき, あらたい (ほた), たるめ
5	162 X 55	あらたい (ほた), ひめたい (まつたい), ほまたい (ちびき)
6	234 X 20	いなこ, ほた, ぎんまつ, しろたい, えは, くちみ, あかげら
7	90 X 45	ほた, くろまつ, あら, しろたい
8	174 X 90	すけぞう (あら) くろまつ, あらまつ, ぎんまつ, ぶつ, あかぼら, やまもち, しろたい, ねじり

(七) 漁具

(a) ア 1 ~ 3 次 (漁具区 1 参照)

0. 幹 縄 (4 種)

(イ) 麻 (かきし 2 回染) 10 号 160 尊, 9 号 80 尊

計 240 尊

(ロ) 針金セキ縄 2 / 番線在綿糸にて巻いたもの

150 尊

- (一) 針金硬縄 29番線3つ捻りを綿糸(6本)で巻いたもの 220群 } 浅海漁場用
 21番線(上質柔軟) 156群 }
- 幹 糸
 - 人造テスグ 10双 技 間 4尺5寸 計 36尺
 - 枝 糸
 - 人造テスグ 9双 8本付 単枝 4尺
 - 釣 鉤
 - タルメ釣 2.2寸~2.3寸 鉄製球状 300双
 - 緩衝用ゴム 自転車チューブ 巾5分 長6~7寸
 - (b) 次々~8次 (漁具図 2. 参照)
 - 幹 繩
 - かきのう 10号11号 250群
 - きぬまかり 7双3子燃鉛付 30群
 - 繩付鉛 4双程度のもの50ヶ 200双
 - 幹 糸
 - 銀 鱗 3分 技 間 4尺 計 32~36尺
 - 枝 糸
 - 銀 鱗 2分8丁 長 2尺7寸 8~9本
 - 釣 鉤
 - タルメ釣 2寸3分 鉄製球状 300双

(A) 経 過

船名	月日	天候	気温	気圧	風向	風力	波高	雲	水色	潮流	水深			獲	記	手
											0m	25m	50m			
第一	4	13	雨	14.3	1018.0	NNW 4	3	3	濁	E	19.2	18.85	19.12	サバ 300尾		
	"	17	快晴	18.0	1024.0	NW 1	1	3	3	NE	21.2	"	"	" 406尾	後部に別記す	
	"	18	曇	16.8	1018.5	NE 1	0	1	3	E	21.4	"	"	" 208尾	(投入のこ)	
	"	19	曇	18.2	1019.0	NNW 1	1	1	4	NNE 速	21.8	"	"	" 97尾		
	"	20	快晴	19.65	1021.5	N 2	1	1	3	E 速	21.6	"	"	スズキ アヲ 4尾		
	"	21	晴	14.8	1018.7	NNWS 4	4	4	3	ENE "	21.1	"	"	スズキ 2尾		
	"	22	曇	16.8	1020.0	NNW 5	4	4	4	" "	20.8	"	"	" 6尾		
	"	28	快晴	22.0	1020.0	SSW 2	1	1	3	NNE "	19.8	"	"	" 1尾		
三	"	27	曇	21.2	1022.0	SE 1	1	4	4	NNE "	19.2	"	"	スズキ 5尾 91x4ツ、エソ 7尾 サバ 50尾 マル 20尾		
	"	5	3	晴	19.4	1020.5	NE 4	4	5	4	NE "	19.6	"	"	スズキ、チビキ 三尾	
大	9	19	晴	24.4	1016.0	NE 3	2	2	3	ESE 0.5	26.7	ホヤ 2			0時15分山川港発。種子島東沖之何う。田之册沖合の曾根発見操業するも漁なく更に南下乗外船5隻と共に操業終了後17時30分大竹崎に錨泊す	
	"	20	快晴	23.8	1016.0	NNE 5	4	3	3	E 1.0	26.5	—			4時35分錨。S/W2時間航走し操業す。NNEの風波強く調査途中魚操発見用送波器故障のため修理すべく8時30分浪物船曲波に向い10時入港す。	
	"	27	晴	24.6	1014.0	SE 3	1	3	3	E 2.0	26.8	91x4、チビキ2、ホヤ8、スズキ3、シロギイ2			5時30分播磨吉富根にて操業開始するも漁悪く上ノ瀬に向う。東沙遠くホヤ、シロギイ10尾のみシロリがあれは可成りの漁を見るものと思ふ。18時45分錨泊す	
	"	28	雨	23.6	1017.0	SSE 2	2	3	3	E 2.5	26.8	ホヤ 80			上ノ瀬漁なく平瀬にて操業。潮流稍マシく80尾のホヤを釣る19時50分 口崎海地假に泊す。	

五	20	晴	24.6	1015.0	NW	4	3	3	ENE 速	28.8	サトウ船	ホタテ 4、チビキ 1	錨止り不可成り分れたもので思われサトウ船へ向う。昨日操業位置附近で操業するも漁なく汐流急進し全く餌付止まり。18時40分附近に錨泊す。			
	21	快晴	24.4	1017.0	NW	3	3	3	NW 速 E 速 NNW 緩	28.5	大島新管根 小笠島	ホタテ 10、チビキ 2 マツガイ 7	4時40分後錨大島新管根に約110mの高潮を覚度(海面以上173m)深淺の処操業するも漁なく小笠島に向う。15時10分より操業するも漁芳からホタテ 18時20分錨泊す。			
	22	晴	25.0	1020.0	NW	2	1	2	NE 速 S 緩	26.7	小笠島 S/W沖	ホタテ 9、チビキ 2 マツガイ 8、マツガイ 10 イナゴ 2	小笠SE沖にて操業するも漁芳からホタテ S/W沖の120-150mの高潮にてホタテ可成り釣る附近の他船も真むで漁した模様。漁場錨泊す。			
	23	曇	24.3	1022.0	N	3	3	2	NW 速 SE 緩	26.2	全上	ホタテ 157、チビキ 2 マツガイ 23 イナゴ 44	午前中全く餌付なく午後より漸次餌付あり。18時30分迄汐SEにて錨と動くと共に日没迄にホタテ 110尾と活港な餌付あり。漁物錨泊			
	24	晴	24.5	1024.0	NNW	4	3	3	NE 速 SW-S 緩	25.5	全上	ホタテ 70、マツガイ 5 チビキ 9、イナゴ 9	錨か、川にて錨漁するも漁なく板錨附近に操業。稍の漁ありも水餌料なく満港の途につく。午前中ホタテ 38、午後(18時50分頃)ホタテ 32、チビキ 9を釣上ぐ。			
航海	日	天候	気温	気圧	風向	風力	波高	ウネリ	水色	潮流	水温	漁場	漁獲	記		
	12	晴	21.7	1027.0	SE	3	2	4	4	SE 停	24.2	-	-	大島新管根	ホタテ 7	中/島新管根に発着時に向う途中カッパ管根にて13時30分より操業すも漁悪く、時化模様のため小笠島に假泊す。
又	13	曇	22.5	1028.0	SW	3	2	3	4	NNW/SE	24.3	-	-	小笠島近海	イナゴ 60、ホタテ 10 アヒバウ、マツガイ	7時より操業開始。小汐にて汐流 SSE 緩にて餌付はよく漁場狭いため魚探での操業も困難であった。
	14	晴	23.2	1022.5	NNW	5	4	4	4	NNW/NNW	25.3	-	-	同上	イナゴ 60、マツガイ 5 チビキ 20、ホタテ 30	昨日と同じ漁場にて操業。汐流 NNW 緩にて餌付大差なく(チビキ 1-2尾)ほうほう釣る。18時25分漁場発旧式管根に向う。
六	15	快晴	23.4	1027.8	ESE	5	4	3	3	NE/NE	26.6	-	-	旧式管根	イナゴ 140、マツガイ 10 ホタテ 50	天候時に操業困難。餌付極量にしてイナゴ主である。海底 250m の白状で起伏あり。W側は浅く SE 側の 250m から 400m の落差ありにイナゴ多し模様であった。

次	16	晴	23.7	1020.0	SE	4	4	3	NW	E	23.7		旧式管根	ギシマツ 20 木夕 20 イナヱ 80 シロタイ 30	餌のかりでマツタイ8尾釣る7時30分板鰈附近操業(かかる 餌の極僅 付工を主に釣獲す。餌料少々残るため小室島附近 近操業の目的にて18時20分北上す。	
	17	曇	23.7	1018.0	NE	4	3	3	NNE	停	23.1	23.99	110m 25.12	小室島近海 木夕 10 イナヱ 5 ギシマツ 5	6時近操業。餌少く12時近操業漁獲を得る。 13時20分漁場発着途につく	
マ	29	晴	20.1	1027.0	ENE	4	3	3	A M E NE P S E M 停		22.5	24.12	160m 24.54	水蛇西管根 クロマツ大 20 " 中 10 " 小 20 木夕 60	9時20分300mの浅所発見。更に170m迄の穴あり、110 mにて操業するも餌付しなくし潮流は午前中NNEで良好であった か午後SEとなり餌付不良。7割ぐ木夕の餌付あり。昨魚場は起 伏に密み300mの等深線は半径3m程度の円と思われた。	
次	30	"	20.9	1029.0	E	5	4	3	A M E E P M 停		24.8	22.35	105m 25.17	合上 クロマツ中 10 アラ 3 木夕 50	7時より操業の潮流NEの感流にして餌付ホホシツアリ正午 頃より汐止りとなり餌付さなきため、操業を断念し徳島 西沖より西沖より時化となり時化となり徳島大島西側に入る 以後操業せず。11日申野帰港。	
航海 次	月	日	天候	気温	気圧	風向	風力	波	ウ ネ リ	水 色	潮 流	水 温 表面	水 温 底	漁 場	漁 獲	記 事
次	3	11	曇	9.8	1023.0	NE	5	4	4	4	NNE	19.5	-	口永長部島 南沖	皆 無	8時10分遼泊地口永長部島操業するも潮流速く 漁全くなく断念し16時40分木村に假泊す。
	"	12	"	10.2	1020.0	NE	6	5	4	4	ENE	19.8	-	上ノ瀬 平瀬	"	上ノ瀬潮流早く釣獲しつかず漁全くなし。11時半頃に向い、 堤外堤内船5隻と共に操業するも漁全く18時 各船と共に口永長部島に假泊。 戻り波非常に強シ
	"	13	"	11.5	1024.0	"	5	4	4	4	E	20.2	-	口永長部 WSW 2-3'	クロマツ 2 ギシマツ 2 アオマツ 1	早朝時化にて操業見せず。9時より口永長部島に假泊して操業 を断念し3時頃僅りの釣獲を見たのみ。潮流非常に速し。 19時10分口永長部に假泊す。
	"	14	"	12.0	1025.0	N	5	4	4	4	NE	20.5	-	芽瀬	アハバラ 1 クロマツ 2 シロタイ 1 ネイソツ 1	7時漁場着操業するも依然潮流速く餌付なくアハバラ その他僅り。18時50分魚線封板政庫と時化のため 口永長部本村遼泊に向い19時40分仮泊す
次	"	17	"	18.3	1029.0	SW	2	1	1	4	停 E極強	19.4	-	黒島 北管根 小室島	ススキ 7 ムツ 3 ヤマモト 2 モヘン 2	2時本村発6時20分より黒島北管根操業するも 漁全く沖出しにてススキ7尾釣る。11時15分沖出し向い 操業するも漁全く13時再び北管根沖で操業 漁僅り。19時漁場着泊

3	18	快晴	18.6	1027.0	S1	1	1	3	NNE極強	19.4	280m 10.87	北:曹根沖 小尾出し 黒島SW7'	スズキ P6	北:曹根餌付なく、波区12で黒島SW沖の浅層層に向い、途中運出しを数通すも魚なし。2時280mより450mに急降す点を発見ESEに移動し、試漁せしが新しい餌付まじり夕刻近浅瀬な魚争を見る。
4	19	晴	15.8	1028.0	SW4	3	2	4	SSW稍急	19.2	190m 12.85	黒島SW7'	" 47	昨日の漁場で操業、尾波稍クあり、汐流相の早くなり昨日程の好漁は見られ、漁場は相当な範囲に汚すものと思われ、汐上川は余り必要としない。スズキは900g、1.200g最大、1900gであった。時化のため帰港の途につく

1/2 ~ 3次航海の記事 (経過に捜入のこと)

ア1次は草垣島附近の調査をするため向いも低気圧接近による時化のため意の如く操業出来ず、甘ハ300尾を釣上げただけであった。水温は順調と思われたが潮流の変化激しく漁獲に相当影響したものと思われた。

魚体は普通の草垣サバ(180~200g)より小さく130~170g見当であった。他に11隻共に操業したが不漁で、40~500尾程度(1校)であった。本次は更に南下しN29°~E120°附近に出漁の予定であったが天候と之の方面の漁況不振のため中止した。

ア2次は屋久島草垣方面を目的に出漁屋久島にて餌サバを釣るため操業するも潮流思わしくなく漁獲少く、魚体も瘦小なるため3晩操業後、出漁中聴取した硫黄島Nの水深290mの地点を調査のため向い、魚探にて調査するも発見に困難を感じた。釣獲は潮流遅いためか悪く帰途硫黄島黒島崎W0.5~1哩の地点で潮を発見相当の魚群が付いているのを見たが夕刻と潮流悪く餌付はなかった。この漁場は潮流さえ良ければ相当の餌付を見ろと云はれ釣獲率の良し潮流を把握するのがこの漁場使用の生命と思われる。草垣を再び調査すべく向いも時化のため断念帰港する。

ア3次は草垣島にて瀬魚釣漁業を目的として操業するため出漁、地え船1隻を誘導すべく同道した。草垣附近を1日目魚探で調査し2日目別当島Wで2隻操業本船が漁獲1思はしくなかつたが同船は60mの漁獲を上げ時期到来すれば可成りの漁を見るものと思われた。この方面の調査を続行する予定であったが天候悪化したので一旦枕崎に避泊した所、意外な長い時化となり、4月3日時化模様をわかつて出漁したが操業意の如くならず機関故障のため断念帰港する。

今回の3次に係る航海の結果を総合して見ると調査漁場が北に昇つていようと思われるが瀬魚漁場は普通春夏は北上し秋冬南下すると云はれているため一応近海から調査する目的で草垣島方面の開拓に主力を注いだが大いに災され予期した成果は

収め得なかつた。

漁具は大分船の使用するものを参考として一応独自のものを作つてみた。

網々種類を比較使用した結果、潮切りは2ノ番線の裸線針金が良く、次いで27番線3ノ燃り針金セサの2ノ番線針金のセサのもの、次がかきのもであつたがかきのも以外は耐スガに疑問があり、今後もう少し調べて調査すべきと思ふ。

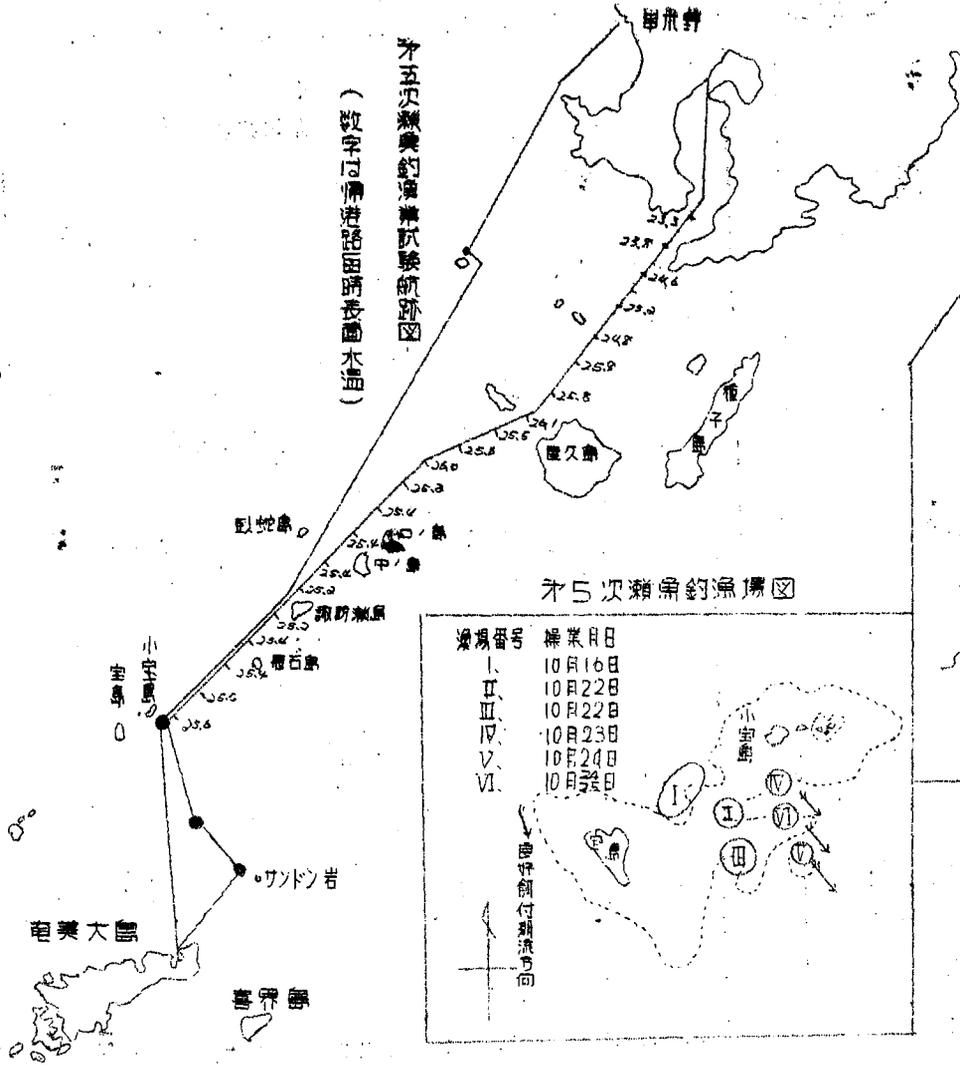
幹、枝系についても春夏は人造テグスより銀鱗テグスの方が餌付は良いように思われた。

(同じ漁場で同じ人数により々々、ノ2と云う比率が出ている)

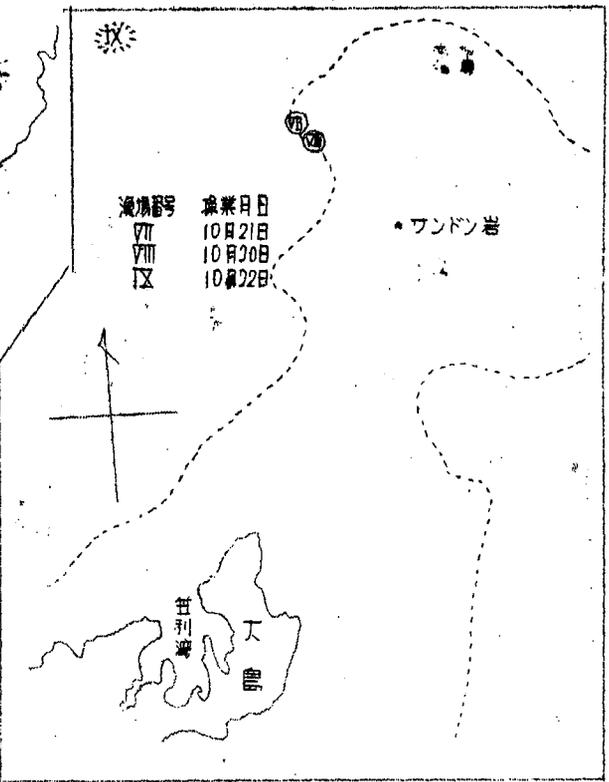
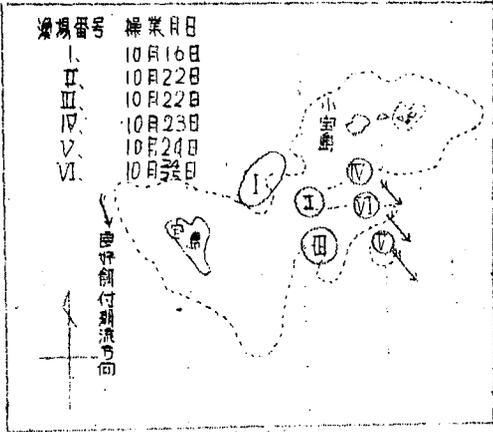
即餌付の激しい時は人造テグスが良く余り餌付の良くない時は銀鱗テグスが良いと云はれるのではないかと思ふ。

又従来のまゝの道具ではからまつた際に解くのに長時間を要するので今後は幹枝が簡単に分れるような式に作り直したので、次航海で使用しその結果を検討したいと思ふ。

才五次瀬集釣漁場航跡図
(牧野川瀬路田崎長岡水道)



才五次瀬集釣漁場図



◎ 小室島 S/W



◎ 大島新管根



◎ サンドン岩 WNW

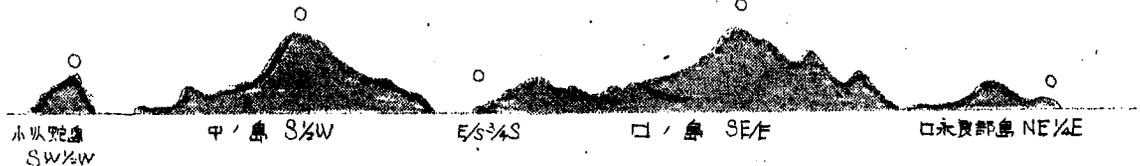


才田沢瀬島釣

黒島北ノ管根沖漁場



□ 島西沖水深160m漁場

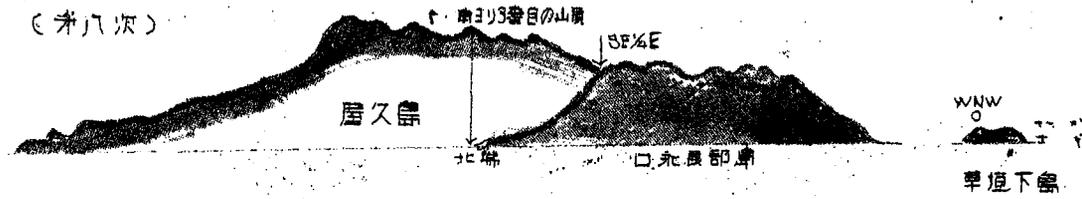


才田沢

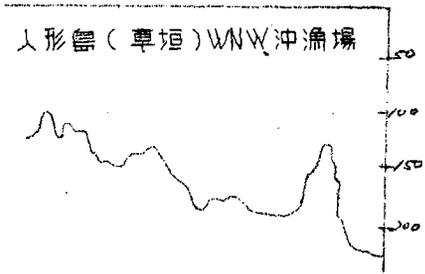
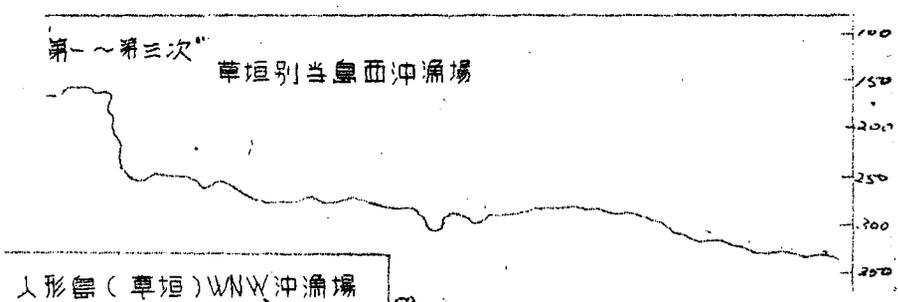
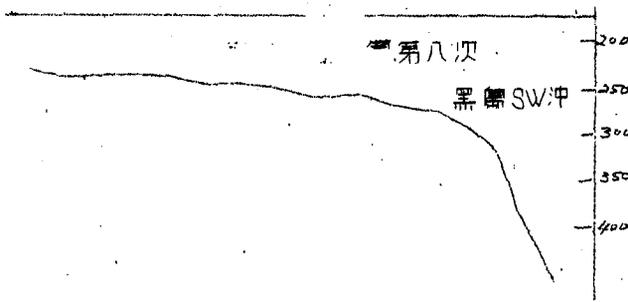
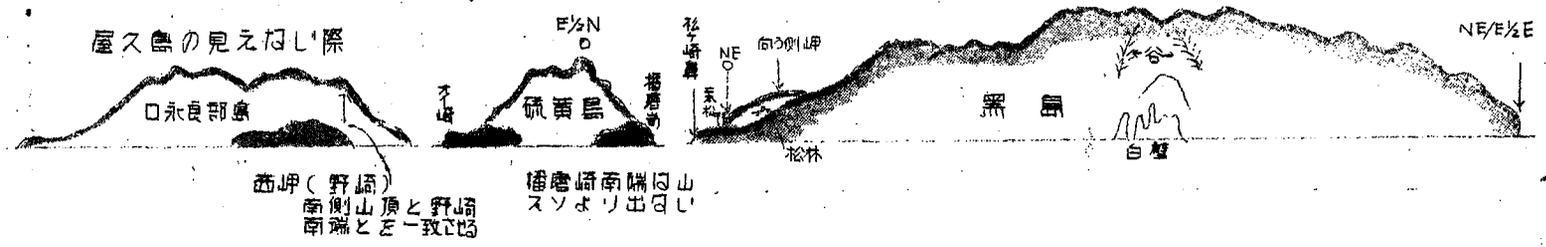


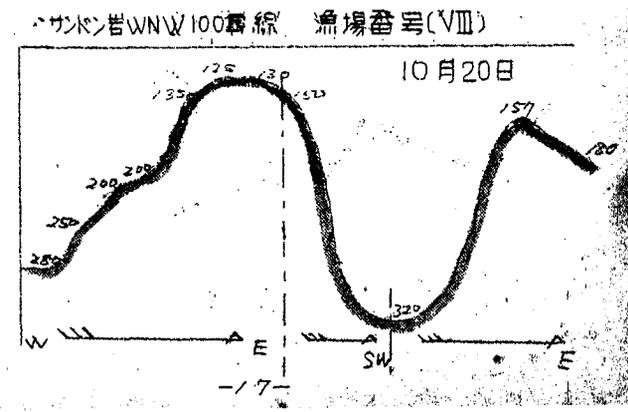
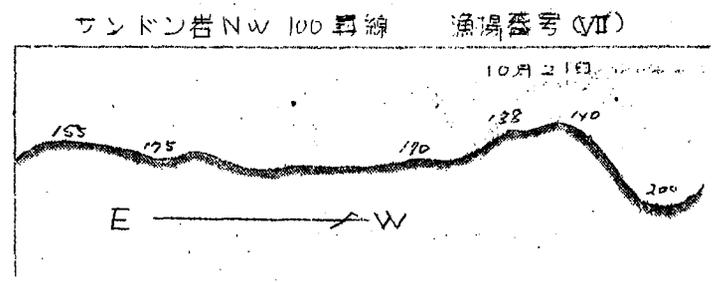
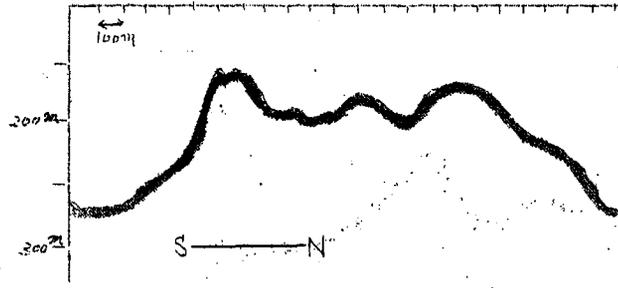
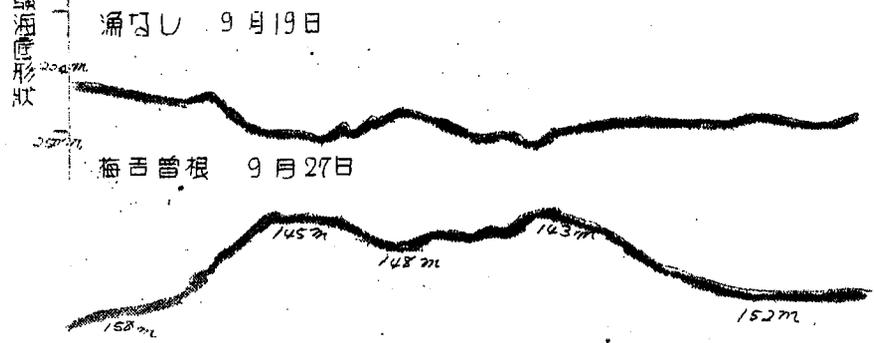
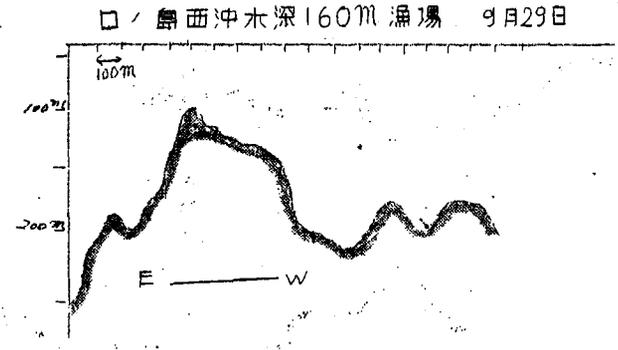
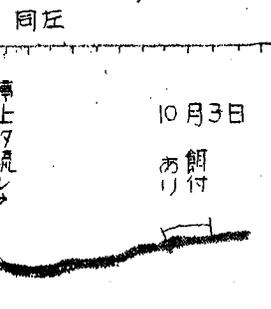
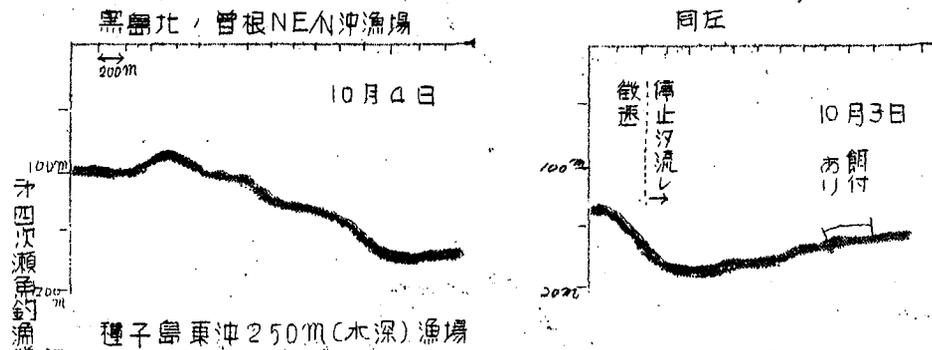
黒島SW(水深280m)漁場対象

(第八次)



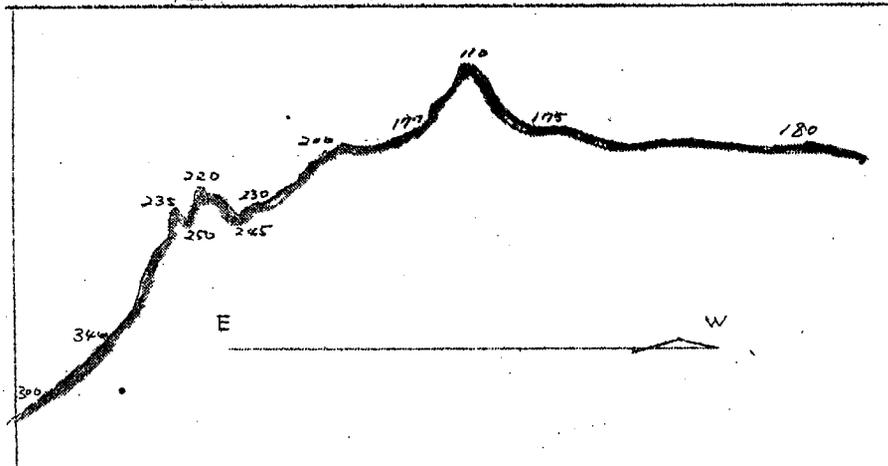
屋久島の見え方の際



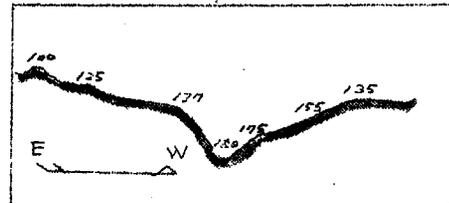


才四次瀬戸釣漁業試験海底形状

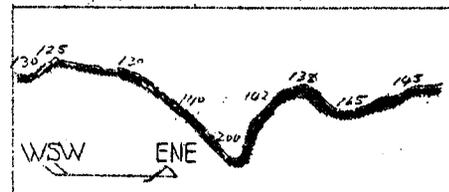
大島新首視 漁場番号 (IX) 10月22日



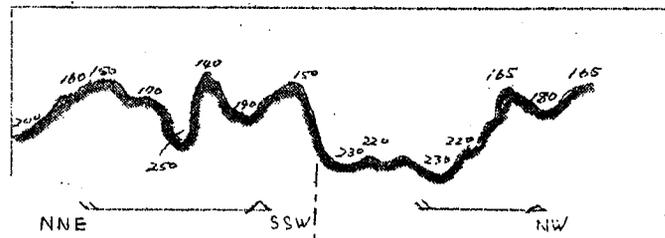
漁場番号 (VI) 10月24日



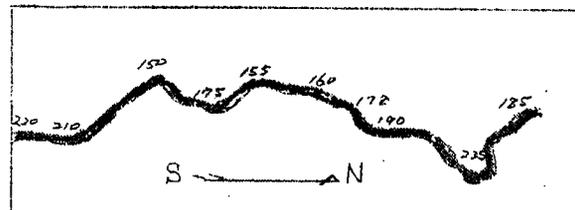
漁場番号 (IV) 10月23日



漁場番号 (IV) 10月23日



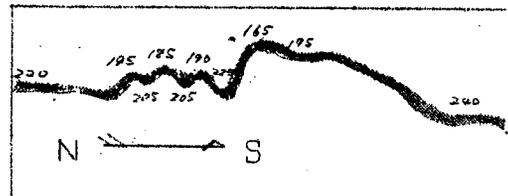
漁場番号 (IV) 10月23日



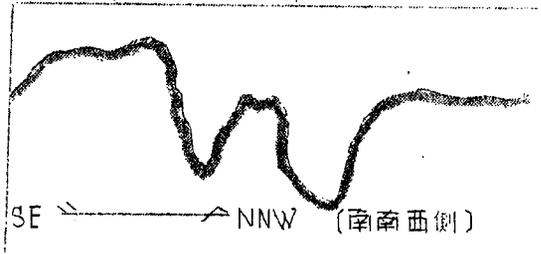
小室島沖 漁場番号 (V) 10月24日



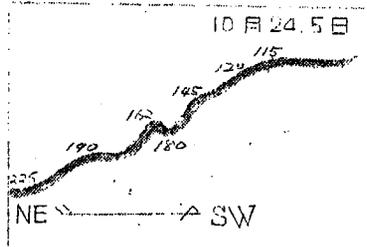
漁場番号 (IV) 10月23日



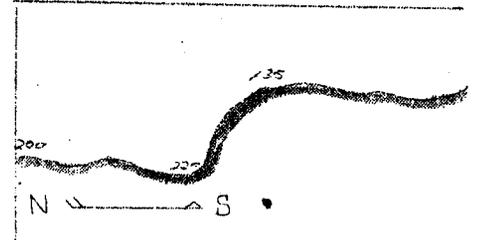
小笠原島沖 漁場番号(V) 10月24日



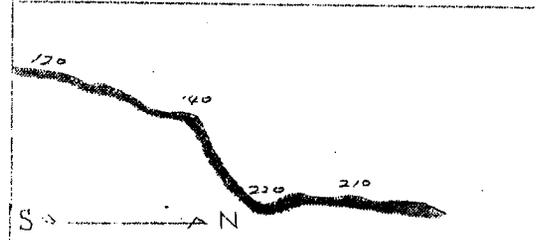
小笠原島沖 漁場番号(VI) 10月24.5日



漁場番号(VI) 10月24.5日



漁場番号(VI) 10月24.5日



第六～七次

